

たまいたま 川柳

交風賀年



霜柱

令和4年(2022年)
1月号 (No.746)

日川協加盟

巻頭言

謹賀新年とごいっしょ

世情はどうであれ、まずは仰々しくも謹賀新年。皆さまのご多幸をお祈り申しあげます。相変わらずの硬い文章には多謝である。

一年の計も松が過ぎればゼロになるとか。武玉川曰く「正月二日馬鹿のはじまり」とも。「人生は一に始まり一に終わる」と喝破された禅僧もおられる。日々が大事と言うことなのだろう。

人の世は憂き世であり浮き世なのだから、凡人は有情無情に身をあずけながら感情の起伏に流れて行く。太陽と月の運行に引きずられるか追いかけてこをするだけだ。大事なものは、この時、この日、この月、この年・を精一杯に生きて行くことだといわれる。

過ぎ去ることを追うなかれ、未だ来ぬことを願うことなかれ、ただ今日まさに為すべきことを為せとも言われる。しかしどうしても忘れられない過去に引きずられるのも事実だ。また巣籠もりやら老いやらに理由付けして、為すべきことを為さなかつた自分を知っている。考えてしまう正月である。

二年程の間、事務局や誌発行担当以外の通信連絡以外は、役員間や会員間の連絡は稀薄だった。昨年十一月に編集会議と執行部会議を、また十二月句会を開催できたのも久々のことだった。十一月の役員会では、今後の吟社の在り様に関して熱心に討議がなされた。その後、代表の発言姿勢から事務局長の心象への影響という問題が発生した。その内容は本号五頁「代表表明」を参照して頂きたい。

願法
みつる

日日是好

元日を八十五回吸って吐く

競争の一步が欲しい一センチ

のんびりは許さないぞと冬の風

夜叉の角思いちがいを詫びて折る

徳利とジョッキいずれと問うなかれ

憂き世浮き世の謹賀新年

十兆億土ほんのすぐそこ

黄金ひらひらクモの巣に枯れ

若さがんばる老いはうなずく

地震力ミナリ富士ヤマノカミ